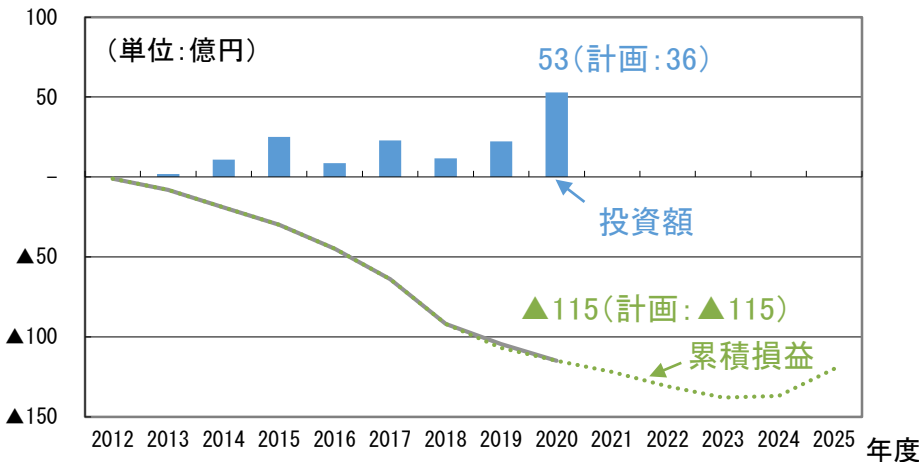


- 改革工程表2018(平成30年12月20日経済財政諮問会議決定)において、「各官民ファンド及び監督官庁が累積損失解消のための数値目標・計画を策定し、2019年4月までに公表」することとされたことを踏まえ、2019年4月に数値目標・計画を策定・公表し、同年11月には、その計画の進捗状況を検証しました。その結果、2019年12月、監督官庁である農林水産省において、A-FIVEについては、2021年度(令和3年度)以降は新たな出資の決定を行わず、可能な限り速やかに解散するとの方針が示されました。その上で、農林水産省より損失を最小化するため投資計画の見直しを行うように指示を受けたことから、2020年5月に「損失を最小化するための投資計画」を作成しています。
- 本資料では、2020年度末(2021年3月末)時点の実績に基づき、上記の投資計画の進捗状況をフォローアップしました。

<損失を最小化するための投資計画>

(単位:億円)



※ 投資額については、改善計画上2019年度と2020年度の合計で90億円と見込んでいたが、改善計画に基づき、政策性及び収益性が高い等の案件に対する出資を行った結果、実績は75億円となった。これによる累積損益への影響は▲3億円程度が見込まれるが、一方で定員削減等による経費削減が見込まれているため、現時点で、2025年度末の累積損失120億円への影響は生じない見込み。

	2020.3末		2021.3末	
	計画	実績	計画	実績
投資額	54	22	36	53
累積損益	▲107	▲105	▲115	▲115

(参考)

- ・2021年度(令和3年度)以降は新たな出資の決定を行わず、解散期限である2025年度(令和7年度)まで、A-FIVEが回収業務を行うことで損失の最小化に努めることとし、2025年度(令和7年度)末の累積損失は、120億円となる見込み。
- ・2021.3末(令和2年度末)の累積損益(実績)については、決算見込み値。

<2020年度末時点の投資計画の進捗状況等>

- 2020年度末の投資額は53億円、累積損益は▲115億円。
2020年5月に策定・公表した年度投資計画額(36億円)に対して17億円上回り、累積損益計画額(▲115億円)に対してほぼ計画どおりであった。
- 2020年度においては、計画の達成に向けて、すでに出資の検討が相当進んでいるものであって、政策性及び収益性が高い案件についての検討を進め、出資決定を行うとともに、不断の経費見直しとして、A-FIVEの役職員の定員について、2020年度末で12名削減(役員▲2名、職員▲10名)等を行った。更に2021年度末では職員の定員を6名削減する。
- 2020年度をもって新たな出資を行わなくなることに伴い、投融資部門の体制を一元化し、これまで案件組成を担当していた人員の振り替え等により、投資先への経営支援業務やEXIT業務の強化を図った。